

新しい大気物理研究所は、あらゆる角度から大気物理の研究を総合的に推進する組織になっていただくことを切望しております。このためには、下層大気と超高層大気をつなぐところの中間圏を中心とする領域における諸問題を広く深く研究することが重要であり、中間圏領域を研究対象とする部門を追加することが是非必要であると思います。具体的には、この領域を力学的巨視的観点より研究する「中間圏大気力学」(仮称)部門と、物性的微視的立場から研究する(稀薄大気物性)部門の二部門程度は、大気物理研究所第一期計画の段階から設置する必要があると思います。両部門における研究項目の主なものは、

中間圏力学部門 (1) 超高層大気との電磁的結合, (2) Planetary wave, tidal wave, gravity wave, infrasonic wave の励起と伝搬, (3) 中間圏大気循環と turbulence, (4) 成層圏大気との dynamic coupling, など.

稀薄大気物性部門 (1) 光化学及び熱化学反応とそれに伴うエネルギー収支, (2) 中間圏大気組成, 微量組成分の役割, (3) 電磁波媒質としての特性, など.

であります。これらの研究推進に必要な観測手段として現在有望なものには、流星レーダー、ドリフト法 (Kinesonde)、Lidar、気象ロケットを利用する諸観測があげられ、これらによる実験観測を実現する機関としては、大気物理研究所においては他にないと思います。

中間圏に関する諸問題には本学会も多大の関心を持っており、地球電磁気学の立場から幾分かの研究をすすめてきましたが、対象の性質上あるいは観測手段の総合性からしても、これ以上の研究の発展には気象学者との密接な協力が絶対に不可欠であります。中間圏領域の研究を促進することが現在の大気物理学研究の重要な一面でありますことは、国際的にも気象・地球電磁気両分野の密接な協力によって中間圏を中心とする研究が計画されている(1971年のIUGG総会の折には Dynamics and Energetics of the Mesosphere and the Thermosphere と題するシンポジウムが予定されている)ことをみても明らかであります。

貴学会におかれまして、今後設立される予定の大気物理研究所において中間圏領域を中心とする研究にも重点を置いていただきたいとの当学会からの要望に御配慮下さるよう重ねてお願いいたします。

第15期 第15回常任理事会議事録

日時 昭和45年4月6日 15.30~18.30
場所 気象庁予報部会議室
出席者 山本理事長, 大田, 竹内, 根本, 有住, 朝倉, 岸保, 神山, 小平, 北川, 各常任理事
報告 庶務

- 3月11日 昭和45年度総会提出議題について全理事に書面審査を依頼した。
- 3月11日 長期計画委員会設置について全理事に書面審査を依頼した。

議題 議決事項:

- 昭和45年度総会準備について
 - (1) 理事長あいさつ
気象学長期計画の一部である大気物理研究所の動きと GARP を中心とする。
 - (2) 昭和44年度事業経過報告
 - (3) 昭和45年度事業計画(案)
以上いずれも大筋が承認された。
 - (4) 昭和44年度決算報告

次の常任理事会に提出する。

- (5) 昭和45年度予算案
 2. 長期計画委員会の名称について
気象学長期計画委員会とする。
 3. 秋期大会開催期日場所について
期日は10月27日(火)~29日(木)とし、場所は京都とする。
 4. 昭和46年度当番支部について
北海道支部の了承を得たので、昭和46年度当番支部を北海道支部とし、秋季に実施する。
 5. その他
 - (1) 気象集誌編集委員の追加について二宮洗三会員(気研)に委嘱する。
 - (2) 財団法人東洋レーヨン科学振興会に科学技術研究助成金候補者推薦学会として要望することについて要望書を提出する。
- 承認事項: 賛助会員 北陸電力KK, 通常会員板野直昭外18名の入会を承認する。